

教育研究・学校経営管理能力向上等に関する報告書

英語グローバル学科 准教授 福本由紀子

下記の内容にて国内研修をお認めいただき、研修期間を終えましたので、ご報告申し上げます。

[研修内容]

1. 研修機関 大阪国際児童文学振興財団
2. 研修期間 令和6年4月1日 から令和6年9月14日 まで(166日間)
3. 研修課題 多文化共生社会における家族観の変容と子どもへのまなざし—館・庭に焦点をあてた英語圏児童文学作品の研究
4. 研修理由 研修先の大阪国際児童文学振興財団および大阪国際児童文学館は、国内随一の児童文学研究所であり、本研究に関する多大な資料を所蔵しているため

[研修報告]

本研修期間において、主に①三宅興子寄贈子どもの本研究会プロジェクトの始動、②フォーラム論文集(「児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる」報告集)の編集、③「多文化共生社会における家族観の変容と子どもへのまなざし—館・庭に焦点をあてた英語圏児童文学作品の研究」のための資料収集を行った。以下、それぞれについての詳細を報告する。

①「三宅興子寄贈子どもの本研究会」プロジェクトの始動

故三宅興子先生(梅花女子大学名誉教授)が大阪府立中央図書館国際児童文学館に寄贈された資料(三宅コレクション)を研究する研究会を立ち上げ、他大学(奈良女子大学、日本女子大学、愛知県立大学、美作大学他)の研究者7名と共に、「三宅興子寄贈子どもの本研究会」プロジェクトを始動した。この寄贈資料は、主として20世紀以前の古いイギリス児童文学の貴重書籍である。本プロジェクトでは、寄贈資料のなかでも「18、19世紀の英語圏の子どもの本」を主研究対象とする。対象資料について、個人またはグループで研究課題を設定し、研究すると同時に、研究対象とした資料について詳しい目録を作成することが目的である。

そこで、資料の整理と共に、資料目録の作成を行った。17世紀から20世紀にかけての作品356点を選択し、一点ずつ書誌情報、作品の内容、資料入手時の価格、三宅による資料情報等を確認、記載している(添付資料参照)。

そのなかから、特に以下、「Dumpy Books for Children」27点とE. V. ルーカスについての研究を始めている(番号はDumpy Booksの巻号)。

- 01 *The Flamp and Other Stories* (1897)
- 02 *Mrs Turner's Cautionary Stories* (1897)

- 03 *The Bad Family and Other Stories* (1899)
 04 *The Story of Little Black Sambo* (1899)
 05 *The Bountiful Lady* (1900)
 06 *A Cat Book* (1901)
 07 *A Flower Book* (1901)
 08 *The Pink Knight* (1901)
 09 *The Little Clown* (1901)
 10 *A Horse Book* (1901)
 11 *Little People: An Alphabet* (1901)
 12 *A Dog Book* (1902)
 13 *The Adventures of Samuel and Selina* (1902)
 15 *Dollies* (1902)
 16 *The Bad Mrs. Ginger* (1902)
 17 *Peter Piper's Practical Principles* (1902)
 18 *The Little White Barbara* (1902)
 20 *Towlocks and His Wooden Horse* (1903)
 21 *The Three Little Foxes* (1903)
 22 *The Old Man's Bag* (1903)
 23 *The Three Goblins* (1903)
 26 *Little Yellow Wang-Lo* (1903)
 27 *Plain Jane* (1903)
 28 *The Sooty Man* (1903)
 29 *Fishy Winkle* (1903)
 30 *Rosalina* (1904)
 31 *Sammy and the Snarliwink* (1904)

“Dumpy Books for Children”とは、E. V. ルーカス(Edward Verrall Lucas, 1868-1938)によって選書された小型本の子ども向けシリーズで、1897年から1904年にかけて、イギリスのグラント・リチャーズ社から出版された33巻と、その後1907年から、チャットー&ウィンダス社とサンプソン・ロー社から7巻が出版され、全40巻となっている。今回の研修では、三宅コレクションに収集されている、上記27巻を現物を紐解きながら、分析を進めている。

②フォーラム論文集(「児童文学とは何かを問い続けて 三宅興子の仕事を顧みる」報告集)の編集

- 目次:1.「子どもの本へのまなざし:三宅興子コレクションと研究について」(松下宏子)
 2.「英国児童文学の源流をたどる—18世紀後半から19世紀前半の児童書を中心に」(多田昌美)

3. 「イメージの伝播と変通—チャップブックの時代から現代へ—」(藤井佳子)
4. フォーラム「児童文学とは何かを問い続けて—三宅興子の仕事を顧みる」
5. 展示目録・解説「大阪府立中央図書館国際児童文学館 企画展示 2023 子どもの本のはじまり—三宅興子 英語圏児童文学コレクションから—」
6. 三宅興子著作目録

上記報告集の編集および著作目録の作成を行った。

③「多文化共生社会における家族観の変容と子どもへのまなざし—館・庭に焦点をあてた英語圏児童文学作品の研究」のための資料収集および文献読解

本研究に関する多大な資料を所蔵している大阪国際児童文学振興財団および大阪国際児童文学館から、特にイギリスの大人向け・子ども向け両方において著名な作家である Roald Dahl (ロアルド・ダール)の研究資料、また、英語圏児童文学作品における「窓」についての研究資料を収集し、文献読解を行った。

研修後の「学校への貢献:学んだこと、どのように実務で活かすのか」という点について、主に①本学科専門教育科目である「英語児童文学」「卒業研究 I」「卒業研究 II」において、学生たちに英語圏児童文学・文化についての分析・研究への手がかりを与えること、②学会報告、論文発表を考えている。

現時点において、すでに今年度後期の授業「英語児童文学 B」「卒業研究 IB」「卒業研究 II」で、研修内容を共有し、学生指導に役立っている。また、学科論文集「Mukogawa Literary Review」No.62(2025年2月発行予定)において「Roald Dahlの短編作品を読み解く—クリティカル・リーディングの一環として 2」というタイトルにて、論文を投稿予定である。その後も随時、「Mukogawa Literary Review」その他の紀要や学会誌等において、論文発表を行う予定である。

最後に、研修をお認めくださった武庫川女子大学、研修中に自身の職務を肩代わりくださった英語グローバル学科の先生方、研修受け入れ機関である大阪国際児童文学振興財団に心より感謝申し上げます。